

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170500589		
法人名	特定非営利活動法人きらりびとみやしろ		
事業所名	グループホーム喜楽里		
所在地	埼玉県南埼玉郡宮代町川端3-8-25		
自己評価作成日	令和 5年 12月 22日	評価結果市町村受理日	令和 6年 2月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 6年 1月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム喜楽里のモットーである「安心・安全・尊厳」の実現を目指し、日々介護させていただいています。令和3年4年と新型コロナに集団感染し、入居者様・ご家族様には大変なご心配とご負担をかけ、職員も心身ともに厳しい時を過ごしました。その苦い経験を活かし、現在も感染症予防を徹底しております。また、デジタル化を進めるため、埼玉県の令和5年度スマート介護施設モデル事業に手を上げ、介護ロボット(見守り支援)の導入を計画しています。満床でも18床という小規模施設で認知症を患っている方に対して有効でかつ職員の介護負担軽減につながる機器を選定したいとプロジェクトチームを中心に取り組んでいます。生体センサーとカメラ機能付きでタイムリーな支援につながればと考えています。通常の業務に加えて新たな試みとなり、大変ですが成果が楽しみです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

通所介護や子育て支援を複合的に行う施設内にある事業所である。室内は、平面的に配置されフロア、各居室、廊下から外の景色が見える。一人一人の思いを大切に考えている。利用者との何気ない会話からビール好きな人の思いを聞き取り、家族と相談のうえ入浴後にノンアルコールビールを提供することにした。すると別の職員がジョッキを用意し、更に満足度を高めた。秋には、利用者も楽しみにしている「手打ちそば」の会が開かれる。中庭にある炊事場で、打ち立てそばを大鍋でゆで冷水でしめ提供される。緊急時の炊き出し訓練もかねており法人として一大イベントとなっている。家族との連絡を緊密におこなっている。毎月事業所の様子を写真入りした報告書に、ホーム長、管理者、担当者がコメントを加筆し郵送している。また、SNSを利用し家族とやりとりしたり、写真、動画を共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりや入居者の思いを大切にすることを理念にあげ、その理念を職員が共有し、日々実践につなげる事を心がけている。	理念は開設時から継続している。永年勤続職員が多く、自然と支援に反映されている。利用者の思いを実現できるよう心掛け、お酒好きな人に、家族と相談の上入浴後にノンアルコールビールの提供をおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、自治会主催のお花見や夏祭り、芋煮会などに参加していたが、この2～3年は感染症予防の為参加を見合わせ、日常的な交流はない。施設周辺の散策で顔を合わせた時はご挨拶している。	自治会に加入し回覧板が届く。コロナ禍で以前のような交流はできていないが、法人として、サロン活動を行い地域交流をおこなっている。イベント時に家族や職員の紹介のもと徐々にボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流の場として6か所でサロンを開催している。現在は感染状況をみながら屋外で行う体操に加え、麻雀や歌、そば作りなどのサロンも再開している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催している。運営状況や入居者の様子、介護の問題点・課題など推進委員の方々、ご家族、介護職員と検討して、意見をいただきサービスに活かす努力をしている。	対面で2か月毎に開催している。行政、包括職員、地区代表、民生委員、家族、管理者、併設の通所介護管理者等で、運営状況や地域課題など話し合われている。ICT化推進や介護ロボット導入等の議題もあがっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には介護保険担当者や地域包括支援センターの担当者へ出席いただき、課題などにご意見をいただいている。	行政担当者、包括職員とは運営推進会議等で顔見知りである。橋渡し役ともなる介護相談員の定期訪問の再開が予定されている。役場より、研修のお知らせや災害時の注意喚起等各種の連絡があり適宜対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯対策として常にしている。身体拘束については定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束や虐待につながる行為や気づきなどを検証している。	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、何が拘束にあたるかを検討している。内容は、職員に共有している。玄関は施錠しているが、外に出たい人には一緒に庭に出るなどしている。家族に支援の場面を動画で送り、声掛け方法を確認するなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、認知症の進行した入居者に対しては言葉が強くなることもあるが、職員間で注意しあい、防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援制度、成年後見制度や生活保護制度の利用者が入居中である。各担当者と支援について話す機会があるので学びになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学から説明と確認、面談を経て契約を締結している。制度改定時は文書をもって対面で説明している。また、解約時はできるだけ丁寧な説明を行い納得後の退去となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者や家族からの意見やご要望をうかがいケア会議や医療面では主治医に相談するなどして対応している。来年度から介護相談員さんの訪問再開を予定している。	運営推進会議で意見聴取をしている。不参加家族には、面会時や電話連絡時に聴いている。毎年家族面談を行いあらためて聴くようにしている。家族とは、SNSを利用し動画もまじえて事業所での様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議で職員の意見や提案、要望などを聞いている。また、年1回の個人面談で仕事内容だけでなくメンタル面や生活状況などを聞き取る機会を設けている。	会議の他普段の会話からも聴いている。シフトの柔軟対応や、業務内容の見直しは常におこなっている。行事の企画運営は職員がしている。法人としても風通しの良い職場を目指しており、交通費の見直しは反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算、特定処遇改善加算、支援手当等に伴い、キャリアパスおよび給与表の整備を行い、全職員に周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はほぼzoom研修。感染予防もあり、研修の時間調整が難しい。研修の機会は減っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は必要最小限度になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人はもとより、実態調査や居宅担当者、ご家族より情報を得て、共同生活の不安を解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居についてのご家族の要望をうかがい、できるだけ意向に添えるよう、関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望が共同生活でできる支援であるか話あい、難しいときは法人で行っている活動等も紹介してできるだけ希望に添えるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と介護を介してではあるが時間を共有し、話しを傾聴して、共に喜び共に悩み安心して生活していただけるよう信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支えるため、ご家族にも協力していただき、生活状況や趣味・好みなど聞き取り、価値観を共有して介護を受けながらも生活を楽しんでいただけるようにかかわりを大切にする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は特別な通院以外は他者と接触するような外出は控えている。ただ、ご家族へはラインを通して出来事や体調を報告したり、動画でご様子を見て頂いたりしてご理解を得る努力をしている。	年賀状や電話の取次ぎをしている。携帯電話で家族や知人と連絡している人もいる。地域在住の職員と地域の話題で盛り上がることもある。好みの新聞購読の継続や好物のおせんべいの差入れに喜んでいる人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話などは積極的に行えるように座席変更を行ったり、定期的に皆様の顔が見えるような活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても定期的にお花を届けてくださったりボランティアとして活動していただいているご家族がいる。フォローして下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中でも一人ひとり希望する介護を心がけている。居室にこもらないように適度に声かけをして集団生活ならではの楽しみも提供できたらと考えている。	生活歴や家族情報等より思いや意向を把握している。ペット(犬)とのふれあいやお好み焼きを調理してもらうなど思いを実現、支援するようにしている。利用者の気づき等は、24Hシートを活用して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を聞き取り趣味や嗜好などが生かせるような生活を送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の行動や会話から心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひとり一人が楽しく生き生きと生活できるような介護計画になるように定期的なカンファレンスなどで話し合って目標などをたてている。	6か月毎に見直している。毎月カンファレンスで利用者の状況確認を行い計画を変更している。洗濯物たたみや食器拭きなどの目標が記載されている。計画書は家族に同意を得、可能な限り本人に署名してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録し、利用者ごとの担当者が中心となって会議で情報共有している。状態にあったケアが提供できるように介護の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時に大好きなペットを連れてきていただいたり、誕生日にはお好きな外出に出かけるなど工夫していた。感染症予防の為、現在は外出はしていないが、ご家族に了解を得て入浴後にノンアルコールをお出すると大変嬉しそうである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院に定期的に通ったり集会などに参加される方もいたが、現在は外出は控えている。今後は、地域のイベントなどにも参加していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	感染症拡大もあって、皆様訪問診療を利用している。専門医の受診が必要な時は、情報提供書をいただいてご家族に受診の同行をお願いしている。	基本は訪問診療をお願いしている。訪問診療は、月二回あり、複数の診療科目に対応している。24時間オンコール可能である。訪問時は、法人内看護師が同席し連携している。その他専門医受診は、家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、1週間の個別シートを確認し、心身の状況を確認している。また、訪問診療時は、介護職からの情報を集約して医師に伝え診療の補助をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には直近の介護サマリー等の情報を速やかに渡している。病院の相談員や看護師は、忙しい中でも対応してくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症が重度化しても、自傷他害行為がみられなければ対応は可能である。また、ターミナルケアもご家族の協力のもと施設で看取りも可能であるが、医療行為は全般で対応していないので、入居時に十分説明をし、その時の状況で話し合いを重ね、理解と同意をいただいている。	重要事項説明書、指針を基に説明している。エンディングノートを活用して意向を確認している。終末期には、医師、家族、事業所で話し合いを行い方向性を検討している。看取り研修もしており、今年度も経験がある。今後も条件が整えば看取りを行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルに沿って対応する。事故報告などは会議で共有し、対応を統一して慌てないようにフローチャートにしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生など避難訓練は感染症予防の為、机上訓練となったり、自家発電の使用訓練、外部の流しを利用したイベントなどで使用を確認している。	ハザードマップや避難所を確認し現実的な避難方法を検討している。食料品等の備蓄を整備し自家発電装置を設置している。イベントにあわせ屋外炊事場を利用し実質的な炊き出し訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守るため、認知症であってもプライドを傷つけない対応を心がけている。しかし、現実には難しいときもあり、声かけの口調もきつくなる。ストレスをためないように職員同士で支え合う時もある。	個人情報、鍵付き書架に収納。送りはインシヤルを用いておこなっている。排泄物に対しても(K)(H)などの隠語を使用している。入浴時、必要以上に介入せず手術傷等には特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での希望や意向、生活リズムを大切に思いにそった支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしに近づけるように柔軟に対応しつつ、生活リズムが乱れないように見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃りの見守りや介助、女性は化粧の習慣のある方は購入のお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、職員と一緒に食事の準備や片付けのできる方は限られている。リビングで食事の前の体操や歌の時間頃には調理の匂いがしてくるので食欲にもつながっている。	職員が手作りしている。台所とフロアに仕切りなく、音やにおいが刺激を与えている。敬老会御膳、クリスマスプレート、ちらし寿司など季節にあわせた食事が提供される。要望によりハンバーガーなど提供されることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査から、栄養状況や水分量など医師より指示されることもあるが、好みのおやつを提供したり嚥下機能に低下がみられる方には形態を工夫してお好きなものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知症や元々の習慣により、歯磨きのできない方、入れ歯の手入難しい方は、その方に応じた支援をしている。訪問歯科に依頼して口腔内の衛生状況を見てもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を少なくするため、一人ひとりの排泄パターンをチェックして自尊心を傷つけないように支援している。	排泄チェックシートを活用しパターン把握している。本人意思でトイレに行く人も多いが、難しい人には、時間や立ち上がったタイミング等で誘導している。夜間は、オムツ対応や時間誘導、離床センサー等を使い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を見て、排泄のリズムで誘導している。できるだけ自然な排便ができるように、身体を動かしたり牛乳などの水分摂取を促したりしている。便秘が続くようであれば、訪問診療医に相談して適切な下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は全利用者に入浴介助が必要なので、希望やタイミングにあった入浴は提供できていない。体調に合わせて入浴をずらしたり清拭に変更している。入浴を楽しめるように入浴剤を入れたりしょうぶ湯やゆず湯にすることもある。	週2回の入浴で、個浴、大浴場、機械浴があり状況に合わせている。個人用の石鹸を使用している人もいる。歌を口ずさんだり職員との会話を楽しんでいる。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤等を利用し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠と日中帯の様子から、訪問診療医に相談することがある。休息は自由であるが、自室にこもらないように声かけをしている。また、温度・湿度計を設置して居室環境を管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を理解し、飲み込むまで確認している。薬の追加や変更時は、職員間で情報を共有し、服薬介助時は二人対応でダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や家族からの聞き取り、日常の話や行動からできる事や興味を聞き取り、共同生活でも可能な楽しみを見つけ出せるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染症予防の為通院以外の外出は控えている。天気の良い日は短時間でも外気に触れるように努力している。	敷地内花壇を見ながら散歩することもある。フロアからは、テラス、その先は中庭となっており外と一体感がある。フロアのソファから外部を感じることができる。広い屋内を利用し歩行したり手すりですクワットをしている人もいる。初詣に地元の神社に出掛けた。	コロナ禍で以前のような外出を控えていた。状況をみながら散歩や季節を感じる外出等の再開を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を財布に入れていた方がいたが、しまい込んで場所を忘れることが頻発し、物盗られ妄想に発展してしまったので事務所でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方は1人いらっしゃって定期的な充電の声かけをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓があり、季節の花を眺められたり、夏にはあさがおやゴーヤを植えて緑のカーテンを楽しんでいる。また、天窓から差し込む光を感じたり、ソファで横になったり、畳スペースに腰掛けたりと自由に心地よく過ごすことができている。	ソファや畳スペース、廊下奥にはベンチなど配置され程よい距離感も確保できる。壁面には、行事の写真やレクリエーションで制作した季節の飾りがある。フロアでは、体操やDVD鑑賞、食事前に嚙下体操、ことわざクイズ、歌唱会は人気のレクリエーションである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になりたいと希望する方はいないが、結果的に一人でTV鑑賞していたり、就寝時間後21時までお気に入りの歌番組を何名かで見ていたりすることはある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学時に部屋を見ていただいて整理ダンスなど持ち物を決めていただいている。居室内は転倒転落等の事故の恐れがない限りできるだけご本人の希望にそって配置している。	ベッド・クローゼットは備え付けである。机やソファ等を持ち込んだり、家族写真や縫いぐるみ、ご自身の書などを飾っている人もいる。居室入り口には、表札や色とりどりの暖簾が掛けられ識別し易いようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、廊下やトイレには手水を設置している。死角が少なく、職員が目が届きやすい。入居して日が浅い方でも自室がわかるように名札やのれんをつけてわかりやすくしている。		